



2021 年 5 月 24 日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディ コミュニケーションセンター

富士 SUPER TEC 24 時間レース、2 台の Audi R8 LMS が完走

- Audi Team Hitotsuyama、24 時間レース初参戦、ST-X クラス 5 位、総合 19 位完走
- Audi Team AS Sport、ピット給油装置の不具合により ST-Z クラス 8 位、総合 41 位完走

アウディ ジャパン株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:フィリップ ノアック)は、Audi Sport customer racing プログラムにより、アウディ車両で国内レースに参戦するカスタマー (プライベート) チームをサポートしています。5 月 21 (金) ~23 日 (日)、富士スピードウェイ (静岡県 1 周 4,563m) でスーパー耐久シリーズ 2021 第 3 戦となる「NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース」が開催されました。

富士 SUPER TEC 24 時間レースは、2018 年にスーパー耐久シリーズの一戦として復活した日本で開催される唯一の 24 時間レースです。今年で 4 回目となる本レースは、GT3 や GT4 といった高性能マシンと、ジェントルマンドライバーに加えて、SUPER GT など活躍する現役のトップ選手も参戦。サーキットにテントを持ち込み家族や友人たちとバーベキューに興じる観客で賑わうなど、欧州の 24 時間レースのような雰囲気をもつイベントとして、年々注目度が増しています。

最上位の ST-X クラス (GT3 マシン) には、アウディ ジャパンとパートナーシップ契約を締結し、SUPER GT GT300 クラスに参戦している Audi Team Hitotsuyama が、TSK Audi R8 LMS でスポット参戦しました。スーパー耐久は、基本的にはジェントルマンドライバー (アマチュア) によって競われるシリーズ戦です。レース経験豊富な都筑 晶裕氏をはじめ、耐久レースは初参戦という人まで計 5 名のジェントルドライバー各氏 (都筑 善雄、小倉 基宏、田中 鉄三郎、本多 秀朗) に加えて、SUPER GT500 およびスーパーフォーミュラに参戦する現役のプロドライバー宮田 莉朋選手を加えた 6 名でチームが編成されました。

ST-Z クラス (GT4 マシン) には、Audi Team AS Sport が、人気アニメーション「エヴァンゲリオン新劇場版」とプロモーションタイアップにより結成したエヴァンゲリオンレーシングとして、エヴァ RT 初号機 Audi R8 LMS GT4 でシリーズ参戦しています。ベースマシンの Audi R8 LMS GT4 は、市販モデルの Audi R8 Coupé と 60%以上の構成部品を共有しており、速さはもちろん安全性、耐久性、整備性が高く、コストパフォーマンスに優れています。チームは、田ヶ原 章蔵代表を筆頭に、3 名のジェントルマンドライバー各氏 (西村 元希、岡本 武之、藤原 能成)、そしてプロドライバーのショウン トン選手の 5 名編成となっています。

5 月 21 日 (金)、午後 12 時のスタートが予定されていた公式予選セッションは、悪天候により順延。およそ 3 時間経過をみるも天候の回復が見込めず、15 時 10 分に公式予選セッションはキャンセルとなることが発表されました。その結果、スターティンググリッドは、スーパー耐久シリーズ第 2 戦 SUGO までのシリーズランキング順で決定されることになりました。

ST-X クラスの#33 TSK Audi R8 LMS は、スポット参戦のためクラス 7 位、総合 7 番手から、ST-Z クラスの#505 エヴァ RT 初号機 Audi R8 LMS GT4 は、クラス 7 位、総合 17 番手からのスタートとなりました。

5月22日(土)15時、曇天のもとドライコンディションで決勝レースがスタート。スタートドライバーは、それぞれ#33 TSK Audi R8 LMS が都筑 晶裕選手、#505 エヴァ RT 初号機 Audi R8 LMS GT4 は、ショウン トン選手が務めました。

オープニングラップで#33 がポジションを1つアップし、長いレースが始まりました。途中、スパインアウトするクルマや接触による落下物などによってFCY(フルコースイエロー)などが発出されながらも、#33 と#505 は共に安定してラップを重ねていきます。スタートから約1時間半を経過したところで#33 は都筑 善雄選手にバトンタッチしました。

スタートから2時間半が経過した頃、弱い雨が降り出すも本降りにはならずドライコンディションでレースは続きました。#505 は、スタートドライバーのショウン トン選手が制限時間ぎりぎりまで順調に86周を走行し、クラス7位までポジションアップした状況でピットイン。しかし、ピット給油設備のトラブルで、約1時間のピットストップを余儀なくされ、順位を総合44位まで落としてしまいました。

一方、#33 は夜のナイトセッションに入り114周を終えた頃、宮田 莉朋選手にステアリングを託します。周回を重ねるごとにチームのベストタイムを更新する現役プロにふさわしい走りを披露し、210周を終えた頃には総合5位までポジションをアップ。都筑 晶裕選手にバトンをつなぎます。その後、都筑 善雄選手を経て、ふたたび宮田 莉朋選手に。ここから猛烈なペースで92周を重ね、深夜3時頃には総合3番手まで追い上げていました。407周を終えて、ピットイン。ここでブレーキなどのメンテナンスを行い、都筑 善雄選手へドライバー交代して再スタートの際、想定外のクラッチトラブルに見舞われてしまいました。クラッチ交換作業は朝5時すぎにまで及び、ここで総合21位まで順位を落としていました。

夜が明けると、前日には見られなかった明るい日差しがさしこみました。午前7時すぎ、#505 は、深夜のスティントを着実にこなし、総合45位で周回を重ねていました。深夜のスティントは、テストをクリアしたドライバーのみ走行が許可されるため、多くのチームは夜が明けるとジェントルマンドライバーがスティントをこなしていく戦略をとります。11時すぎた頃、#33 の本多 秀朗選手が下位クラスのマシンと接触、緊急ピットイン。補修作業に約40分を要しました。そして再びコースイン。総合20位でラップを重ねていきます。592周を終え、レースも残り約2時間のところで、宮田 莉朋選手に託します。この時間帯でただひとり全体トップタイムの1分42秒台を連発します。19位に順位をあげ、残り1時間をきったところで最終スティントを都筑 善雄選手に託しました。#505 は残り1時間半というタイミングで順位は42番手、最終スティントをショウン トン選手に託します。

午後3時、最終的に#33 TSK Audi R8 LMS は667周を走行し、クラス5位、総合19位。#505 エヴァ RT 初号機 Audi R8 LMS GT4 は、566周でクラス8位、総合41位で、2台ともに過酷な24時間レースを完走しました。

#33 Audi Team Hitotsuyama チーム代表 一ツ山 亮次氏のコメント

「チームとしては初めての24時間レースへの参戦でした。かねてより24時間レースに挑戦してみたいという思いのなかで、かつて私共のチームからAudi R8でSUPER GTに参戦していた都筑 晶裕選手より、耐久レースに挑戦したいジェントルマンドライバーと一緒にやってみませんかという話があり、以前チームがSUPER GTで使っていた2016年型のマシンをこの24時間レース用に仕上げ参戦を実現することができました。プロドライバーからは宮田選手に参加してもらいましたが、現役のトップドライバーの素晴らしいパフォーマンスをみせてもらいました。残念ながらクラッチトラブルで上位争いからは脱落してしまいましたが、今回の目標であった完走を果たす

ことができました。24 時間レースは学ぶことが多く、何よりレースを楽しむことができました。また次のチャンスがあればぜひ挑戦したいと思っています」

#33 Audi Team Hitotsuyama ドライバー 宮田 莉朋選手のコメント

「私としては初めての Audi R8 で、かつマシンが最新型ではなかったため、チャレンジングなレースでしたが、レースラップはトップチームと遜色のない走りをすることができました。Audi R8 は、世界中の GT3 レースで結果を残しているだけあって、そのポテンシャルの高さを十分に感じることができました。この 24 時間レースは初年度から参加していて、走り方はわかっていましたし、私の今回の役割はジェントルマンドライバーの方々をいいペースに導くことでした。アドバイスをすることにより、皆さんのペースをあげるのは、自分にとっても勉強にもなりますし、それにとっても楽しい経験でした。とにかく完走できたことをうれしく思います」

#505 Audi Team AS Sport チーム代表 田ヶ原 章蔵氏のコメント

「BoP (性能調整) によってストレートのスピードは抑えられていますが、“耐久のアウディ”というだけあって、レースラップもよく、非常に安定したタイムで走ることができるので、決勝レースでの追い上げには自信をもっていました。実際にゴールまでマシンには一切不具合はなく、いいペースで走ることができたのですが、残念ながらレース前半でピット給油装置の不具合が発生し、最後までそれを解消することができませんでした。思うように給油することができず、結局 20 回ものピットインをすることになり、勝機を失ってしまいました。これにより完走を目指す戦略にかえて、クラストップ周回の 70%以上という規定をクリアし、完走ポイントも得ることができました。やはり 24 時間レースには、お金で買えない夢や感動があります。アマチュアドライバーが主体のレースですし、ぜひもっといろいろな方に挑戦していただきたいです。今年のスーパー耐久シリーズはあと 3 戦残っていますし、必ずどこかで表彰台を狙っていきたいと思います」

アウディ ジャパンは 2016 年来、Audi Sport customer racing パーツトレーラーを全国のサーキットに配備してレースに参戦するカスタマーチームをサポートしています。今年も専用のトレーラーにボディ、トランスミッション、エンジン等、レース車検に適合した約 3,100 アイテム、約 11,100 点の部品を積載し、いかなるレース展開にも対応できるように体制を整えて、SUPER GT、スーパー耐久、および TCR ジャパンに参戦するチームと共にサーキットを転戦します。